

7-38-55 の法則

↑は、心理学者アルバート・メラビアンが提唱した概念であり、「コミュニケーションの際に人はどのような情報に基づいて印象を判断するか」について実験した結果をまとめたものです。

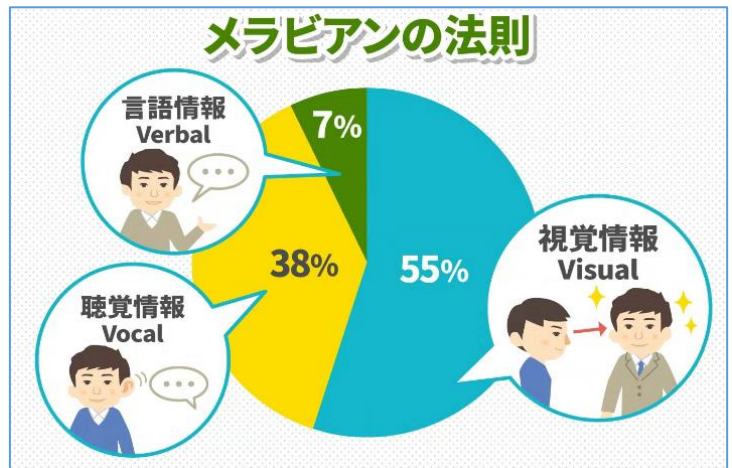
実験では、話す内容はとてもポジティブだけど、顔は陰しく声のトーンも厳しくするという、言語情報と非言語情報が矛盾した話しをした場合、受け手は言語情報を 7%、話し方などの

聴覚情報を 38%、見た目や表情などの視覚情報を 55%という割合で判断していることがわかりました。

つまり、コミュニケーションにおいては非言語能力が大切であり、なかでも視覚情報の影響力はもっとも高く過半数を占めていることがわかりました。

そのために、マスクを着用することが日常化している今は、特に視覚情報が不足するため、右の写真のように優しい目もとを作ることを意識したり、相手の目を見つめたり、声もはっきりと言うことを心がけ、会話の速さを工夫する必要がありますね。

また、電話の場合、視覚情報がないので相手は聴覚情報から視覚情報を想起するため、言語情報7%、聴覚情報93%という割合となり、耳から入る情報の重要さが増すと言われています。そのため、話し手の言葉遣いが少し粗雑なだけで、受け手は悪い態度で電話しているというイメージを持ってしまいます。



NO.5 2021年5月 由布市立石城小

自己紹介力

自分の良さを相手に紹介できる人は自信のある人ですね。

3つの暴力

「これ全員、俺が雇ったエキストラ。きみと長く一緒にいたいからさ」

これは、ROLANDさんが、彼女と車でデート中、大渋滞に巻きこまれた時、彼女へ言った言葉だそうです。(テレビ朝日「徹子の部屋」引用)

さらにROLANDさんは、

「暴力って3種類あるとおもって。言葉の暴力と、物理的な殴ったりけったりの暴力と、プラスアルファ空気の暴力って、僕はあるとおもって。舌打ちしたりとか、イライラしたら空気の暴力を与えてしまうじゃないですか。だからそういう時に和むひと言をいいたいなってというのが、あのひと言だったんです。」

ROLANDさんの言う空気の暴力とは、舌打ちやため息、さらには、にらんだり腕組等の威圧的な態度のことでしょう。「空気の暴力っていうのを相手に与えてはいけないと、常に意識している」と口にしているROLANDさんに、黒柳さんは「感じいいわね、和むひと言。絶対いいと思う」と絶賛しました。

この話を聞いて、どの世界でも成功する人は他者を思いやる視点を大切にしているのだと思いました。学校がクラスターになる等、誰も体験したことがない事態や、先が見えない今だからこそ、私たちが良い空気をだしていきましょう。